

学校の授業を、家庭でも！

国語の授業って、実は、こうやってできてます！ 第3号

今回は、文学的な作品（物語）の学習を家庭で取り組むとしたら、

- ①「誰が何をしたのかを、文章から正確にとらえる」
- ②「文章に書いていないこと、場面からを想像する」
- ③「文章の内容について、（自分の経験と重ねて、）気づいたこと（似ているところや違うところ）を家の人に伝える」
- ④「書いてある同じ部分について、家の人を考えを聞き、自分の考えとの違いに気付く」

以上の4つのポイントを整理しました。

今回は、じゃあ、具体的に何を教えたらいいのかについて、お話しします。

①「絵にかいてみて！」

はじめに、①「誰が何をしたのかを、文章から正確にとらえる」について、具体的な教え方のアイデアを紹介します。

「すいせんのラッパ」の話を読んだ後に「絵にかいてみて！」と子どもに伝えます。読んだ内容を絵で表せたならば、内容をしっかりと理解できているということになるでしょう。

ここでは、登場人物全員を絵に描けているかが大切になります。

- ・すいせん
- ・あり
- ・グローブみたいなかえる
- ・緑色のリボンみたいなかえる
- ・豆つぶみたいなかえる

これらの登場人物が、過不足なく描けているかが、一つ目のポイントです。不足があれば、子どもに聞いてみるといいですね。

「あれ、他にもかえるはいなかったっけ？」
みたいな風に。

次に大切なのは、**かえるの「大きさ」を文章をもとに**理解しているかというポイントです。

「グローブみたいなかえる」は<おすもうさん>という表現があります。
他のかえるよりも大きく描けているかがポイントです。

その他にも、本文の表現にぴったりの絵が描けているかをチェックして、「文章から正確に捉えている」かを確認します。
例えば、「あり」が笑っているかどうかです。（『ありたちは、にこにこして見おくりました。』という叙述があります。）

ところで、
登場人物の大きさが正確に描ければ、音読の仕方が変わってくると思います。

きっと、初めて音読したときの3人の「かえる」の音読の感じと、絵を描いた後の3人の「かえる」の音読の感じでは、読み方の感じが変わってくるのではないのでしょうか。かえるの体の大きさや特徴に合わせた読み方に変わっているかもしれません。読み方が変わっていれば、お話の内容を正確にとらえたことで、読み取りが深まったということにもなるでしょう。

②「なぜ『かえる』の読み方が変わったの？」

次に、②「文章に書いていないことを想像する」についてです。

「なぜ『かえる』の読み方が変わったの？」と理由を尋ねます。すると、「だってさ、グローブのかえるは体が大きからゆっくり迫力がある感じで読んだ方がいいかなって...」「緑色のリボンのかえるは、ダンサーって書いてあったから、リズムに乗ってる感じで楽しい雰囲気が出るように読んだよ。」と答えたとします。これは、本文のどこにも書いていません。書いていないことを想像することができたことになりますね。つまり、自分なりに想像を広げ、作品を味わったことになります。

今回はここまでです。

次回は、③と④のポイントについてお話ししますね。

ありがとうございました。